

主体的・対話的で深い学びとは

「主体的な学び」

- ① 興味や関心を持っていること
- ② 見通しを持っていること
- ③ 粘り強く取り組んでいること
- ④ 自分の学びのふりかえりができること
 - ・学んだことで成長できた
 - ・もっと成長したい



「対話的な学び」

- ① 子ども同士の対話
- ② 教職員や地域の人々との対話
- ③ 本などを通しての作者や先人との対話
- ④ 自己との対話
 - ・考えがもてた
 - ・考えが深まった
 - ・新たな考え方に気づいた
 - ・考え方に自信が持てた



「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、

- ① 知識を相互に関連づけてより深く理解したり、
- ② 情報を精査して考えを形成したり、
- ③ 問題を見いだして解決策を考えたり、
- ④ 思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

子どもたちが「つながり、考えを深める」授業づくりをめざして

その1 「めあて」と「ふりかえり」について、今一度見直そう

- ♥1 「めあて」の質を高めて、「主体的・対話的で深い学び」へ
- (1)めあてを可視化していますか。
●授業のねらいを子どもの視点から表現しためあてを、きちんと提示する。
- (2)めあての「自分化」をさせていますか。
●既習事項や経験とつなげ、自分化（読ませる、書かせる等）させる。
- (3)めあては「逆算設計」で考えていますか。
●授業が終わった時の子どもの姿（～ができるようになる等）を想定することから始める。
- (4)効果的なふり返りができる言葉になっていますか。
●「～ができるようになる」「～が分かる」などは、ふり返りがはっきりする。
- (5)わくわく感のあるめあてになっていますか。
●子どもがやってみたいと思えるめあてにする。
- (6)めあてには、学習する意味が示されていますか。
●例「めあてが達成できたら、こんなふうな見方ができるようになるよ」等



- ♥2 ふりかえりを使い分けていますか。
- (1)毎時間のめあてへのふりかえりをしていますか。
●めあてへのふりかえり
●学習方法や学習過程へのふりかえり
●自分の学び方や学んだことへのふりかえり
- (2)単元のめあてへのふりかえりをしていますか。
●学習内容を現在や過去のものとの関係付ける。
●学習内容を一般化（概念化）する。
●学習内容を自分とつなげ、自己変容を自覚する。

☆適宜、適切な子どものふりかえりを紹介することで、学ぶ意欲にもつながる。
☆「よく分からなかったところ」や「もっと知りたいと思ったこと」はその後の授業に生かす。

具体的に書かせましょう！
・分かったり、深く考えたり、新しいことに気付いたりしたこと
・よかったと思うこと
・参考になった意見（友だちの名前を挙げながら書く）
・よく分からなかったこと
・もっと知りたいと思ったこと



その2 教師のかかわり方について、今一度見直そう ～ まずは教師から！ 子どもは教師から学びます！！ ～

- ♥1 あたたく、考えが深められる聴き方ができていますか。
- (1)子どもの状態や表情等を確かめてから授業を進める。
●子どもたち全員と目を合わせながら話を始める。
●静かで落ち着いた雰囲気の中で話を始める。
- (2)反応しながら聴く。
●視線やしぐさ等で聴いている心を伝える。
●間違えても、考えが変わってもいいという雰囲気の中で話を聴く。
- (3)発言を分析しながら聴き、必要に応じて問い返す。
●何を言おうとしているか、なぜそのような表現をするのか、何が足りないのか、どこが他と違うのか、どのように生かせるか

- ♥2 子どもたちをつなげていますか。
- (1)教師がすぐに答えずに子どもたちに広げる。
- (2)常に教材や資料に戻って話をするように促す。
- (3)自分から友だちに「ここが（ここから）分からないから教えて」と言えるように促す。
- (4)考えを深めたい時、ペアやグループ学習を取り入れる。
●考えはペアやグループで一つにまとめるのではなく、個人の学びが深められるようにする。



- ♥3 発言を大切に問い返していますか。
- (1)「分からない」というつぶやきや発言を大切に取上げる。
- (2)「同じです」で終わらせない。
●どこが「同じ」なのか問い返す。
●同じ内容でも、本人の言葉で発言させる。
- (3)発言を教師が補充してまとめたり、教師の意図に引き寄せて発言を言い換えたりしない。
●発言者に問い返す。・それはどういう意味かな・なぜそう言ったのかな・どこから（本文・資料）そう思ったのかな
●ペア・グループや全体に問い返す。・〇〇さんはなぜこう言ったのかな・〇〇さんの言いたいことはこうかなって自分の言葉で（ペアの子に）言ってみよう
- (4)発言を価値づける。
●子どもに見えていない価値を言葉にする。
・～という表現がいいね・～な見方（考え方）ができたね
・〇〇さんのおかげで～の考え方を知ったね

★ 子どもたちが、教科の本質にせまるような「思考を働かせる」問いをなげかけていますか。

理由づける	順序立てる	多面的に見る	比較する	分類する	関係づける
★意見や判断の理由を示す。 ・どうやって解いたの？ ・〇〇にはどんな性質がありますか？なぜそう思ったの？ ・〇〇を選んだ理由は何か？	★視点や観点をもって順序立てる。 ・まずは、何をやるのかな？ ・次は、どんなことが考えられるかな？ ・順番に並び替えると、どうなるかな？その理由も説明しよう。	★多様な視点や観点に立って対象を見る。 ・もし～だったらどうなるだろう？ ・Aの方法で解いたらどうなるかな？ ・Bの立場に立って考えるとどうなるだろう？	★複数のものごとを比べる・対比する。 ・AとBを比較してみよう。 ・〇〇に視点を当てると、AとBの違いは何ですか？ ・一番〇〇なのは、どれですか？	★ものごとを特徴ごとにまとめる。 ・どこが同じで、どこが違うかな？ ・何に似ているかな？ ・〇〇を3つに分け、その理由を説明しよう。	★既習学習とのつながりや関係を見つける。 ・AとBの共通点から、何が分かるかな？ ・AとBはどんな関係があるだろう？ ・どのようにして考えましたか。

「思考を働かせる」ということには、「比較する」「分類する」などのいくつかのパターンがあります。
子どもたちが「思考を働かせる」には、知識や出来事などの様々な情報を、いくつかの切り口でとらえさせるなげかけをすること（問い）が大切です。
授業改善マニュアル 理論編P30より